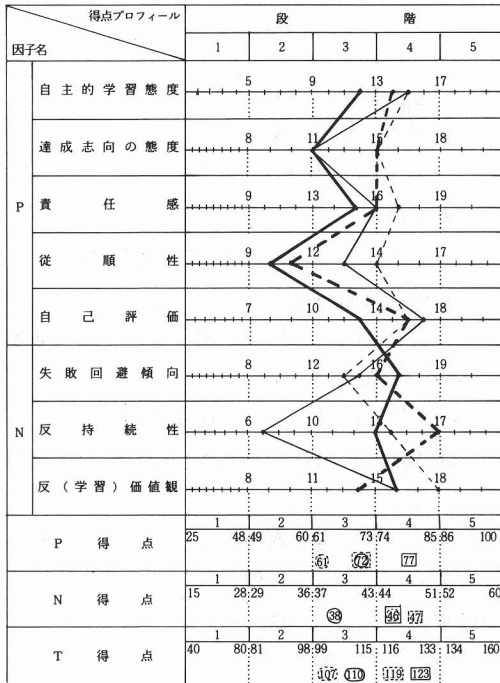


事例4 小学6年D児（女子）

1. 学習意欲検査からみた児童像



—○— 58年1月14日 } 自己評価      - - - □ - - - 58年1月14日 } 他者評価  
 —○— 58.12.7 } 自己評価      - - - □ - - - 58.12.7 } 他者評価

- (1) 児童の自己評価によると、平均すれば普通の学習意欲を持っているといえるが、ばらつきが大きい。勉強の必要性を理解しており、自主的学習態度もある。しかし、勉強にあきやすく、とりかかりが遅い。
- (2) 教師の評価によれば、学習意欲は高く、全体的にバランスがとれている。

2. 学習意欲の背景

- (1) 知能・学業・身体  
 教研式知能検査SS58  
 学業成績は4段階（国語，算数は5段階）  
 夜尿症
- (2) 性格検査（YG） C型  
 非活動，内向性である。特徴としては、やや劣等感を持ち、常に周囲のことを気にする傾向があり、社会的不適応の面がみられる。また、自分の考えを示すことが少ない。

(3) 親子関係診断検査など

両親の養育態度が不一致であり、子供に対し関心が低い。

(4) 担任の所見

しっかりした生活態度であり、級友からの信頼はあるが、目立つことを嫌う。

3. 心理的治療の仮説と方法

学習に対する根気強さと、すぐに学習にとりかかれる気持ちを育てたい。それには、生活全体に自信を持たせ、活動性を高めることが必要である。

- (1) 非常におとなしく、自分から教師に話しかけることはない。話しかけられても恥ずかしがり、自信を持って返答できない。そのため、会話の機会を多く持ち緊張感を解く。さらに、会話を通して、自分自身を見つめさせる。（カウンセリング的アプローチ，行動療法的アプローチ）
- (2) 知的な面が高いため、読書（伝記）により、様々な人生があることをさとらせ、さらに将来の目標を持たせる。（読書療法）
- (3) 何事につけても消極的であるため自己表現の機会を与え、自信を持たせる。（行動療法的アプローチ）
- (4) 夜尿症のため、生活全体に自信がないとも考えられるので両親に対して、夜尿症の治療を積極的に勧める。また、一致した態度で子供に接することと、子供との話し合いを多く持つよう働きかける。

4. 治療の実践

- (1) カウンセリング的アプローチ
  - 自分から自分に出す形式の手紙の中で、自信がある生活をしたと述べている。
  - 「草」という題の詩で、草は仲間はずれにされている。もっと、きれいな花に生まれ変わりたいと記している。
  - 下学年の人に好かれる人になって卒業したいと話している。